

# おもしろ算数③⑥ (3年生)

(このページは、直接入力できません。そのまま見るか、いんさつして使ってね !!)

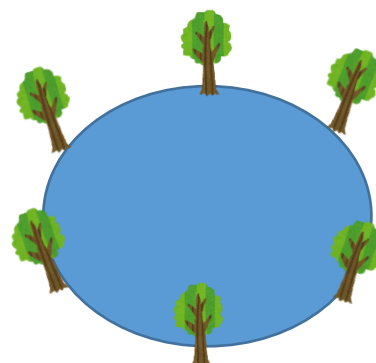
小学校3年生のみなさん、こんにちは。

おもしろ算数③⑥では、「わり算」の問題です。



## 【問題1】

右の図のような丸い形をした池の  
まわりに、木が6本植えてあります。  
木と木の間の長さはどこも同じです。  
池のまわりの長さは30mです。  
木と木の間の長さは何mですか。



答え. 木と木の間の長さは5m  
式  $30 \div 6 = 5$

## 【問題 2】

右の図のようなまっすぐな道に

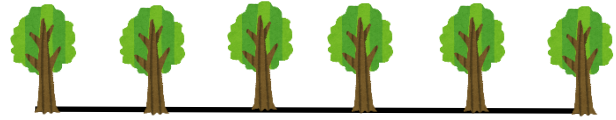
木が6本植えてあります。

木と木の間の長さはどこも同じです。

最初の木から最後の木までの

長さは30mです。

木と木の間の長は何mですか。



答え. 木と木の間の長さは6m

式  $30 \div 5 = 6$

問題1では、まわりが30mの池に6本の木が植えてあります。

問題2では、まっすぐな30mの道に6本の木が植えてあります。

同じような問題場面なのに、問題1の答えは5mです。問題2の答えは6mです。

なぜでしょうか。

算数で困ったときは、問題にもどって考えるのが一番です。

問題1も問題2も、「木と木の間の長は何mですか。」と尋ねられています。

この問題を解決する式を、言葉の式にすると、次のようになります。

「全体の長さ」 $\div$ 「木と木の間の数」＝「木と木の間の長さ」

その式に、問題1と問題2を当てはめて考えると、

問題1では、 $30 \div 6 = 5$

問題2では、 $30 \div 5 = 6$  になります。

問題1の丸い形の池では、植えてある「木の数」と「木の間の数」が等しくなります。

問題2のまっすぐな道では、植えてある「木の数」と「木の間の数」は等しくなりません。

「木の数」より「木の間の数は1少なくなります」

ここが、分かりにくいところです。具体的な図をかいて考えるとよく分かりますね。